

新しく助教授にエルドリッジ氏

OSIPP 国際公益システム講座の助教授に Robert D. Eldridge (ロバート・エルドリッジ) 氏が7月1日付けで着任した。

同氏は1968年、米・ニュージャージー州生まれ。90年リンチバーグ大学(国際関係論専攻)を卒業後、日本政府、自治体による「語学指導等を行う外国青年招致事業(JET)」で来日、2年間兵庫県の中学校で英語を教えた。以後、大阪で日本語の勉強を続け、「21世紀はアジアの時代だ」と思い94年、神戸大学大学院法学研究科博士前期課程に入学。五百旗頭(いおきべ)真教授の下、日本の政治・外交を研究。99年に同博士後期課程修了、政治学博士号取得。日本学術振興会、サントリー文化財団、財団法人平和安全保障研究所の研究員を経てOSIPPに。

専門は、日本政治外交・日米関係論。最近は、特に沖縄から見た戦後日米関係を研究。「結婚生活もそうですが、日米関係においても対話こそが問題を解決する手段」と考え、現在の沖縄問題に関して、様々なレベルの非公式な対話を促進させるべきと主張。理論だけではなく、実践・実証を

日本政治外交・日米関係論



取り入れた、社会に貢献できる研究がモットーであるという。OSIPPの学生に対しても、「人生において自分が社会にいか

貢献できるのかを毎日考えて欲しい」と期待する。

兵庫県川西市在住で、家族は日本人の妻と二歳の長女。旅行、読書、写真、スポーツ(マウンテンバイク、テニス)など多趣味。特に旅行ではもう世界の25カ国を回り、学生時代に一日500円で旅行した東欧・共産圏諸国が、最も思い出深いと言う。

主な著書・論文

The Origins of the Bilateral Okinawa Problem: Okinawa in Postwar U.S.-Japan Relations, 1945-1952, Garland Publishing, NY and London, 2001 ; 「サンフランシスコ講和と沖縄の処理—『潜在主権』をめぐる吉田・ダレスの『交渉』(第五回読売論壇新人賞最優秀賞)、読売新聞調査研究部編『読売論壇新人賞入賞論文集』1999年

→めくるたびに、両者の大きな違いに児童からどよめきが起った。最後に「日本には天然資源は少ないが、もう一つの資源、知的資源はたくさんある。それを担っているのは君たちだから、君たちは日本の宝なんだよ」と児童にエールを送った。



7月9日の第3回目は、黒澤満教授による「世界の平和と日本」の講義。「いま、世界は平和でしょうか?」という児童への問いかけで始まり、「戦争がないから平和」という答えに対し、他の児童が「自然破壊」や「心の貧しさ」などを挙げて鋭い反論をする一幕も。今ある全地球上の核兵器を使ったら人類が25回消滅することも説明、日本が唯一の被爆国としていかに核兵器のない世界にしていすべきかという問題も投げかけた。締めくくりに「想像力」という言葉を挙げ、「自分の目には見えない世界の紛争、貧困などについて無関心になるのではなく、想像力をもって考えることが重要」と児童たちに訴えた。

最初は「えらい大学の先生が来る」



児童らに囲まれる高阪教授

と緊張気味だった児童たちも、しだいに講義に引きこまれ、休憩時間は教授を取り囲み質問攻め。同校の住田幸夫校長は「児童たちが大人になって、あらためてこの連続講座の意義をかみしめてくれるだろう」と、児童の心に響く講義に好感触をつかんでいた。

次回講義は夏期休暇をはさみ、9月14日に行われる予定。

ため、今回の科研プロジェクトの採用は、金額よりも実績が評価されたという面でもとても嬉しい」と話している。

科研のプロジェクト

新規に三件採用

★環境を含む政策総合評価モデルの開発★医療・介護・保健・年金の分野における情報化・市場化★太平洋西淵地域の制度改革と国家間連携

2001年度の文部科学省科学研究費補助金が、OSIPPが申請していた研究プロジェクト3件に対して新規に交付されることになった。

橋本介三教授を研究代表者とする「環境を含む政策総合評価モデルの開発に関する調査・研究」は、

3,970万円、辻正次教授を研究代表者とする「医療・介護・保健・年金の分

野における情報化・市場化による改革の理論・実証分析」は1,200万円、また、床谷文雄教授を研究代表者とする「太平洋西淵地域における制度改革と国家間連携の将来」は1,460万円の交付を受け、それぞれ2~3年計画で研究する。

近年にない高額な科研補助金を受けたことについて辻研究科長は、「大学院の独立行政法人化を見据え、今後、外部から独自に研究資金を調達することがさらに重要になる。その